

伊都地方における県立高等学校再編整備についての保護者等説明会議事概要

平成25年9月26日（木）午後7時～9時
橋本市産業文化会館アザレア

議事

- 1 県教育委員会あいさつ（県教育庁教育総務局長）
- 2 再編（案）概要説明（県教育庁教育総務局総務課長）
 - （1）伊都地方の県立高校再編にいたる経緯について
 - （2）再編プログラム（案）について
- 3 質疑応答

質疑の内容は次のとおりです。

- Q** 高校再編に対する県教育委員会の基本的な考え方を教えていただきたい。
- A** 中学校卒業生数が年々減少してきている中、高等学校においては多様な授業を展開し、質の高い教育を保証することや、クラブ活動、生徒会活動、学校行事などで生徒同士が触れあい、切磋琢磨しながら成長していくことが重要と考えています。こうした活力のある学校を維持していくには、「1学年につき4学級」以上は必要であると考えており、この考え方を基本として再編を進めています。
- Q** 配付された資料では、「和歌山県立高等学校再編整備2期（後期）実施プログラム」（案）のように、「（案）」という文字が付いているが、大枠として決定されていることと、今後検討していくことを教えていただきたい。
- A** 細かい部分は、様々な意見を聞きながら今後検討していきますが、大きな柱としてはこのイメージで進めていきたいと考えています。
- Q** 橋本、紀北工業、紀北農芸、笠田高校はそのまま存続するのか。
- A** 伊都地方には、普通科の学校と職業系の学校がありますが、職業系の学校には、那賀地方からも多くの生徒が来ているので、今回の再編の対象とは考えていません。
- Q** 伊都高校の校名はどうなるのか。
- A** 新しい学校の校名は、今後いろいろな意見を聞きながら決定していきます。
- Q** 平成26年度は、伊都高校普通科として生徒を募集するのか。また、最後まで伊都高校の在校生としてしっかり指導していただけるのか。
- A** 平成26年度は、伊都高校普通科として生徒募集を行います。また、在校生は、卒業まで伊都高校生として学んでいただきます。
- Q** 「午後の時間」には幅広い内容を記載しているが、その中で、「福祉科」の設置は考えなかったのか。
- A** 今回の再編案は、伊都高校と紀の川高校の普通科を前提として考えました。
- Q** 配付された資料の中で、「伝統工芸・芸能などを学ぶ場」とあるが、具体的にどういった科目か。また、誰が教えるのか。
- A** 伊都地方でいうと、パイルや再織りなどいろいろな伝統工芸があります。講師についてはふさわしい人を探していきたいと考えています。
- Q** 今回の再編案が新聞報道されたとき、「廃校」という文字が出ていたものもあった。こういった文字が出ないよう、教育委員会が記者発表するとき、もう少し配慮をいただきたいだったが、記者にどのように説明したのか教えていただきたい。
- A** 新聞に「廃校」という見出しが載ったことについて、伊都高校の関係者には大変ご心配をおかけしました。再編案を記者に説明した際、記者から「手続き的には伊都と紀の川の両校を廃止するのか」といった質問がありました。学校の設置・廃止は条例で定めていますので、「手続き上、両校を廃止して新しい学校を設置する」と手続き上の説明をしました。

Q 今回のような説明会で具体的に説明を受ければ一定理解できるが、説明会に出席していない人も含めて、丁寧に周知をしていただきたい。

A パブリックコメントを受けて「再編実施プログラム」を発表する際、丁寧に対応したいと考えています。

Q 県は地域への説明も行っていくということだが、今日の説明会の案内は県のホームページに載っていなかった。今回のような説明会を今後も開いてくれるのか。

A 今日の説明会は、各中学校を通じて保護者の方、関係者の方々等にご案内させていただきました。県としましては、地域に向いて丁寧に説明をさせていただきたいと思っています。今後とも、ご要望に応じて説明させていただく機会を設けたいと考えています。

Q クラブ活動について、全日制の生徒と同じ大会等に参加できるのか。

A クラブ活動の大会への参加方法等については、詳しいことを確認して改めてお知らせします。

Q 今回の再編案を発表すると、来年度の入試で伊都高校に出願してくる生徒が減少すると思うがどうか。

A 伊都高校、紀の川高校とも、来年度の募集で最後となりますが、卒業するまでしっかりと指導していくことを約束します。

Q 伊都高校在校生と、新しい学校の生徒のカリキュラムや活動時間帯などがかなり違う。新しい学校では、「午後の時間」に授業を受ける生徒もいれば、クラブ活動をする生徒もいる。伊都高校在校生は、午後は授業である。一緒にうまくクラブ活動ができるか心配である。

A 伊都高校は全日制、新しく開校する学校は定時制・通信制の学校であり、システムがかなり違うことからこの先どうなっていくのか心配であることは十分理解できます。来年伊都高校に入学する生徒を、今回の再編を行ったとしても、責任をもってしっかり指導させていただきます。
また、伊都高校と新しい学校の両校の生徒が、一つの学校としてうまく活動していけるよう工夫していきます。

Q 伊都高校の在校生が留年したとしたら、新しい学校の生徒になるのか。

A そういったことにならないよう、最大限のケアをしてみますが、様々な事情により、どうしても3年間で卒業することができない場合には、新しい学校への転校も含めて色々な選択肢の中から丁寧に指導させていただきます。

Q 伊都地方には普通科だけでなく職業系の学科もある。那賀地方は普通科のみである。伊都地方には普通科が少ないのではないのか。

A 伊都地方には普通科と職業系の学科を設置しており、那賀地方には職業系の学科を設置していません。那賀地方の生徒が職業系の学科に進学するときは、他の地方に出なければならないということになります。その点、伊都地方では普通科をはじめ、職業系の学科などを地域の学校から選ぶことができます。
また、伊都地方の中学校卒業生の95%は伊都地方の学校へ進学しており、約150名の生徒が隣接する那賀地方から職業系の学科を中心に流入してきています。

Q 新しい学校では、午後からスポーツをすることも可能である。このことを現在の伊都高校で先取りしてスポーツ科のような学科を設置してもらえれば、現在の中学3年生も伊都高校を受けやすいと思うがどうか。

A 新しい学校では、スポーツを「学校設定科目」に位置付けて単位認定していくというカリキュラムを構築します。従いまして、平成26年4月に入学する生徒にこうした新しいカリキュラムを適用するのは難しいです。

Q 新しい学校の募集規模はどの程度を想定しているか。

A 新しい学校の募集規模につきましては、今後検討してまいります。

Q 平成27年度に伊都高校の生徒募集を停止したとき、全日制普通科の募集定員は4クラスの減となるのか。また、職業系の学校を選択する生徒がいる一方、普通科の学校を選択する生徒も多くいる。新しい学校を開校するため、普通科を希望する生徒が橋本高校や笠田高校の普通科に行けるよう配慮をいただきたい。

A 伊都地方における中学校卒業生の志望状況を十分分析して、募集定員を決定してまいります。

Q 新しい学校の理念はよく、実現すればすばらしい学校となると思うが、全国でモデルとした学校はあるのか。

A 学校教育と社会教育、生涯学習の場を一つの学校で融合させるという例は全国にありません。

Q 現在の伊都高校も紀の川高校も、新しい学校も「単位制」の学校である。県として「単位制」の評価を行っているのか。

A 高校教育が多様化する中で、様々な子どもたちのニーズに応える形で、県としても「単位制」のシステムを積極的に導入し、一定の成果をあげてきたととらえています。新しい学校においても、今まで培ってきた「単位制」の仕組みを活かしていきたいと考えています。

Q 新しい学校は全日制か定時制か。それとも、全く新しい課程の学校か。

A 課程としては定時制課程と通信制課程を併せ持つ学校です。

Q 紀の川高校を充実させた形で伊都の校地に移転するのではないのか。

A 移転するわけではありません。伊都高校と紀の川高校のよさをあわせて、新しい学校にしたいと考えています。

Q 全日制に定時制を併設するのではダメなのか。

A 伊都地方における生徒の減少に対応するとともに、当地方の教育の充実と活性化を図るには、全日制高校を1校減らさざるを得ない状況であり、このたび再編を行うこととしました。

Q 「午後の時間」の具体的な内容を早く示して欲しい。志望校を決定する際、後輩と一緒にクラブ活動ができるかどうかは重要な点である。詳しい教育課程を遅くとも年内には示していただかないと、現中3生の進路決定に大きな影響がある。

A 新しい学校の具体的な中身について、学校とも十分協議し、現在の中学2年生はもとより、現在の中学3年生が進路を決定するまでに再度詳細な説明会を開催させていただく等、対応します。

Q 教育委員会の再編の方向性は、複数の学校を統合することか。例えば、一つの学校を廃校にして、不足する定員を近隣の学校に増やすことは考えられないのか。

A それぞれの学校が培ってきたノウハウやいいところを残したい、ということをご理解いただきたいと思えます。

Q 現在の伊都高校よりすばらしい学校とするよう、具体的なことをしっかり考えて欲しい。

A 県教育委員会はもちろんのこと、学校とも十分協議し、充実した学校としたいと考えています。

以下、要望事項

・ 新しい学校の校名を決定する際、現在の伊都校地に開校するという点を配慮していただきたい。